

# 災害文化人類学研究会

7月18日午後6～7時

東北アジア研究センター4階第二会議室（北川合同研究棟430室）

Julia Gerster, ベルリン自由大  
学 & 災害科学国際研究所・み  
ちのく震録伝アーカイブ



Ben Epstein, ロンドン大学 &  
災害科学国際研究所・災害精  
神医学分野



企画：

高倉浩樹（東北アジア  
研究センター・教授）

Boret P. Sébastien（災  
害科学国際研究所・助  
教）



## 1- 「絆作り」ローカルな食文化と宮城県内と福島県内に行 うコミュニティー作りへの影響（日本語）

東日本大震災から6年が過ぎた今も、コミュニティーがバラバラにな  
った状況が続いている。いまだ元の状態に戻れない中、被災者  
によるコミュニティーづくりのためには、国際的な移民コミュニ  
ティーと同じように、文化が大事な役割を果たすと考えられる。  
福島県の浪江町と宮城県名取市の人々の活動を比較しながら、そ  
の地域の食文化を巡るアイデンティティーや、コミュニティーづ  
くりについて発表したい。

## 2- 日本の災害精神保健活動：人類学的考察（英・日本語）

災害精神保健は人事的支援において、ますます重要な位置を占め  
るようになっており、従って、様々な文化的背景を踏まえた研究  
の必要性が高まっている。支援を提供する関係者の視点に基づい  
て、この研究は、日本の精神保健と心理社会介入策の社会的・文  
化的価値を評価し、その制度上の、また構造的、文化的効果を探  
ろうとするものである。先に示した課題に対する答えを探し出す  
ため、ボトムアップ式の現場に根ざした人類学研究を行う。

共催：東日本大震災後のコミュニティー再生・創生プロセスと  
持続可能性に関する実証的共同研究